

近畿地区 大学生SDGsセミナー

～近畿地区発 大学生が提案する
『持続可能な社会づくり!』～

「SDGs」=持続可能な開発目標



2019年8月に、近畿地区内で「持続可能な開発目標 (SDGs)」の活動に、近畿地方で取り組む大学生達が大阪府大阪市に集まりました。

同じ持続可能な社会を作り出すことを目的としている仲間でも、活動内容も多様で、多様な活動を行なっている彼らがSDGsとどのようにつながっているか、また、近畿の大学生としてどのようにSDGsと関わるかを、社会人からの講演や学生同士での意見交換を踏まえ、理解を深めました。当日の様様をレポートします。

基調講演

『2019 近畿地区 大学生 SDGs セミナー』

講師名：國松志帆さん パナソニック株式会社 アプライアンス社

当社は「産業人たるの本分に徹し 社会生活の改善と向上を図り 世界文化の進展に寄与せんことを期す」という経営理念を掲げており、世界のくらしと社会の発展に貢献するべく事業活動を展開しています。

また社会貢献活動として、無電化地域に対し太陽光エネルギーを使って明かりがつくランタンを提供する「ソーラーランタン10万台プロジェクト」を行いました。これにより、灯油ランプを使用する途上国の人々に対し、灯油の不使用による健康状態の改善、また夜間医療や夜間学習が可能になるなど、途上国の抱える課題解決に貢献してきました。また、滋賀県草津拠点では未来の人財(材)育成として小中高校生を対象に社会科、理科、環境、SDGsなどに関する次世代育成を行う他、地域生態系保全に資するエコロジカルネットワークの構築や地域との防災連携などにも取り組んでいます。

事業活動においても「環境ビジョン2050」を掲げ、創・省・蓄エネ関連商品を展開する事で「使う」エネルギーよりも「創る」エネルギーが上回る事を目指しています。

私たちは、創業者の「社会や人々の為になる商品などを作ることで事業活動をしていますが、事業活動や産業の発展が、自然を破壊し、人間の幸せを取り去る様な事があってはならない」=「企業は社会の公器」という理念の下、世界中で今も未来も、よりよい暮らし、よりよい社会が続くよう事業活動や地域連携を展開していきます。学生の皆さんには自分の活動が地域から世界へ、そして未来につながっていく、ということを自覚し、同じ活動をする仲間で見える化、共有し、共に活動を広げてほしいと思います。



國松志帆さん

事例紹介

『近畿地区大学生 SDGs セミナー 事例紹介』

講師名：佐々木康之さん NPO 法人いけだエコスタッフ

NPO法人いけだエコスタッフのSDGsに関する取組を、「再生可能エネルギー」、「地球温暖化防止活動」「3R」「環境学習」といういけだエコスタッフの4つの柱の事業に沿って、事例を紹介しました。いけだエコミュージアムの取組や市民共同発電施設の建設、地域の野菜を販売する朝市や大学生と連携した環境学習プログラムの監修など、多岐にわたる活動において、多様なステークホルダーと連携をしながら、持続可能な社会の実現を目指しています。

最近では食の分野へのアプローチとして、「3R キッチン Vegan」の取組にも力を入れています。地産地消をコンセプトとした取組で、オーガニックな食材の提供だけでなく、フェイクミートなどの新しい食材の紹介・提供、フードマイレージやカーボンフットプリントへの配慮、レストランでの風力発電、太陽光発電の利用など、地球温暖化、持続可能な社会に配慮した取組を行っています。環境問題をとりまく世界の現状はめまぐるしく変化しておりますが、常に時代の潮流を読むことが大切です。そしてSDGs自体はあくまで指標であり、達成のための目標ではありません。SDGsの達成に向けて、いけだエコスタッフの事業において、リカレント教育やサードプレイスなどに取り組むことで、さらなる持続可能な社会への貢献を行いたいと思います。大学生のみなさんは今教育課程の最終段階だと思いますが、私自身含めてこのような「学びの場」を提供し続けることが、自分たちなりのSDGs達成の近道ではないかと考えています。



佐々木康之さん